



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	自閉症特性，社会的カモフラージュ，アレキシサイミア傾向とメンタルヘルスとの関連：TAS-20，CAT-Qの短縮版尺度を用いた検討
Author(s)	岡田， 智；Okada, Satoshi；張， 亜倩 他
Citation	子ども発達臨床研究， 23， 75-83
Issue Date	2026-06-20
DOI	https://doi.org/10.14943/rcccd.23.75
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99977
Type	departmental bulletin paper
File Information	07_1882-1707_08.pdf



資料論文

自閉症特性，社会的カモフラージュ，アレキシサイミア傾向とメンタルヘルスとの関連

— TAS-20, CAT-Q の短縮版尺度を用いた検討 —

岡田 智*・張 亜倩**・中西 萌子***・千田 若菜****

Relationship Between Autism Spectrum Traits and Mental Health in College Students

— Using a Short-Form Scale of Alexithymia Tendencies and Social Camouflaging —

Satoshi Okada, YAQIAN ZHANG, Moeko Nakanishi, Wakana Chida

要 旨

本研究は，大学生を対象として，自閉症特性，社会的カモフラージュ，アレキシサイミアと心理的苦痛との関連を検討することを目的とした。大学生 87 名を対象に質問紙調査を実施し，自閉症特性 (CATI-j)，社会的カモフラージュ (CAT-Q 短縮版である CATQ-SF および CATI-j の下位尺度である CAM)，アレキシサイミア傾向 (TAS-20 短縮版である GAFS-8)，心理的苦痛 (K10) を測定した。重回帰分析の結果，自閉症特性，アレキシサイミア，社会的カモフラージュはそれぞれ独立して心理的苦痛と関連していた。一方，CATI-j の下位尺度である CAM は心理的苦痛との有意な関連を示さなかった。CATQ-SF は心理的苦痛と関連する社会的カモフラージュを把握する上で有効な尺度である一方，CATI-j の CAM は心理的コストが比較的少ないカモフラージュ行動を測定している可能性があり，研究や臨床においては目的に応じて尺度を使い分ける必要があることが示唆された。

キーワード：自閉症特性、社会的カモフラージュ、アレキシサイミア、メンタルヘルス

問題と目的

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder : ASD) は，社会的コミュニケーションの困難および限定された興味・反復行動を特徴とする神経発達症である (American Psychiatric Association,

2022)。近年では，これらの特性は診断の有無にかかわらず一般人口にも連続的に分布することが示されており，自閉症特性 (autistic traits) として個人差の次元で捉える研究が広く行われている (Baron-Cohen et al., 2001 ; Constantino & Todd, 2003)。先行研究では，自閉症特性の高さは不安

* 北海道大学大学院教育学研究院

** 北海道大学大学院教育学院

*** 北海道科学大学保健医療学部看護学科

**** ながやまメンタルクリニック

や抑うつ、心理的苦痛などのメンタルヘルスの問題と関連することが報告されている (Tafolla & Lord, 2024 ; Kanne et al., 2009 ; Kunihiro et al., 2006)。また、近年、高等教育機関において自閉症特性を有する学生への支援ニーズが高まっており、大学生における自閉症特性とメンタルヘルスとの関連を理解することは重要な課題となっている。

こうした背景を踏まえ、自閉症特性と心理的適応の関係を理解する上で社会的カモフラージュ (social camouflaging) という概念が注目されている。社会的カモフラージュとは、自閉症特性に伴う社会的困難を補償するために、自身の特性を隠したり、社会的期待に合わせて行動を調整したりすることを指す (Hull et al., 2017)。具体的には、他者の行動の模倣、社会的スクリプトの使用、表情や視線行動の調整などが含まれる。このようなカモフラージュ行動は社会的適応を促進する側面を持つ一方で、持続的な努力や自己抑制を伴うため心理的負担を生じさせることが指摘されている。実際に、カモフラージュの高さは不安や抑うつと関連することが報告されている (Cook et al., 2018 ; Keating et al., 2024)。

また、自閉症特性とメンタルヘルスとの関連を理解する際には、感情認識や感情言語化の困難を示すアレキシサイミア (alexithymia) も重要な要因として研究がなされている。アレキシサイミアは自閉症特性 (Kinnaird et al., 2019) と、また、不安や抑うつ (Preece et al., 2024 ; Taylor et al., 1992) と関連することが知られている。最近では、ASD のある者の感情処理の困難は、ASD とアレキシサイミアの併存によって説明される可能性があり、これらの併存は ASD のひとつのサブタイプとして考えるのが妥当であるとシステムティックレビューによって結論づけられている (Kinnaird et al., 2019)。

こうした研究の進展に伴い、自閉症特性や社会的カモフラージュ、アレキシサイミアを測定する心理尺度も開発され、調査研究で多く使用されている。しかし、これらの尺度の中には項目数が多

いものもあり、複数の心理特性を同時に測定する調査では回答負担が課題となる場合がある。また、既存の自閉症尺度やアレキシサイミア尺度は時代変遷とともに、その構成概念の妥当性が議論され、下位尺度構成を見直すことが必要であるとする指摘もある (English et al., 2021 ; Williams & Gotham, 2021)。

近年、臨床場面や健康調査では、回答負担の少ない短縮版尺度の使用や包括的にアセスメントを行うことの重要性が高まっている。最近では、自閉症特性については Comprehensive Autism Trait Inventory 日本語版 (CATI-j ; Okada et al., 2024)、社会的カモフラージュについては Camouflaging Autistic Traits Questionnaire Short Form (CATQ-SF ; Hull et al., 2024)、アレキシサイミアについては The 8-item general alexithymia factor score (GAFS-8 ; Williams & Gotham, 2021) が開発され、比較的少ない項目数でこれらの特性を測定することが利用可能となった。しかし、これらの尺度を同時に用いて、これらの特性間の関連を検討した研究は現在のところみられない。

以上の課題意識から、本研究では大学生を対象として、最近開発された尺度を用いて、自閉症特性、社会的カモフラージュ、アレキシサイミア傾向がメンタルヘルスとどのように関連するかを検討することを目的とした。合わせて、臨床や調査研究におけるこれら尺度の有用性についても検討する。

方 法

1. 参加者と調査手続き

北海道にある国立大学 1 校にて研究協力者を募った。具体的には、研究者らが担当する 2 つの授業を通じて、計 200 名程度に研究協力の案内を行った。研究の目的、方法、参加の利点・リスク・補償、研究参加の任意性と同意撤回、結果の公表を記載された研究の説明を読み、参加について同意した 87 名が研究に参加した。男性 39 名、女性 47 名、性別非開示 1 名であり、年齢範囲は 18 歳

から50歳であった ($M = 21.9$, $SD = 5.3$)。調査はGoogleフォームを用いたオンライン調査であり, 2025年11月から12月にかけて実施された。なお, 実施に先立ち, 第一著者の所属する大学の倫理委員会の承認を得た (承認番号25-08-03)。調査項目は, 人口統計学的変数 (年齢, 性別) および次に示した尺度にて構成された。

2. 実施尺度

(1) Comprehensive Autism Trait Inventory 日本語版 (CATI-j ; Okada et al., 2024)

社会的交流 (Social Interaction), コミュニケーション (Communication), 社会的カモフラージュ (Social Camouflage: CAM), 感覚過敏 (Sensory Sensitivity), 反復行動 (Repetitive Behaviors), 認知の固さ (Cognitive Rigidity) の6つの下位尺度から構成される Comprehensive Autism Trait Inventory (CATI; English et al., 2021) の日本語版を用いた。本尺度は自閉症スペクトラム指数 (AQ) のように一般人口における自閉症特性を測定する尺度である。各下位尺度は7項目からなり, 「まったく当てはまらない (1点)」から「とても当てはまる (5点)」の5段階で評定を求めた。下位尺度であるCAMの得点は7点から35点の範囲をとり, 得点が高いほど社会的カモフラージュ行動をとっていることを示す (資料1)。自閉症の周辺特性であるCAMの項目を除く5つの下位尺度を合計したCATI合計得点は35点から175点の範囲をとり, 得点が高いほど自閉症特性が強いことを示す。CATI-jはオリジナル版と同様に信頼性および構成概念妥当性, 基準関連妥当性が確認されている (English et al., 2021; Okada et al., 2024)。

(2) Camouflaging Autistic Traits Questionnaire Short Form (CATQ-SF ; Hull et al., 2024)

自閉症特性をもつ人が対人場面において自らの困難さを目立たなくするために用いる社会的カモフラージュ (camouflaging) 行動を測定する尺度である。原版である Camouflaging Autistic Traits Questionnaire (CAT-Q) の短縮版として作成され

た尺度であり, 補償 (Compensation), マスキング (Masking), 同化 (Assimilation) の3因子から構成され, 各因子3項目, 計9項目からなる (資料2)。これらの項目の日本語訳は Hongo et al. (2024) の日本語版 CAT-Q のものを用いた。各項目について, 「まったくそう思わない (1点)」から「非常にそう思う (7点)」の7段階で評定を求めた。逆転項目を処理した上で合計得点を算出し, 得点が高いほど自身の困難や自閉症特性をカモフラージュしている傾向が強いことを示す。本尺度は原版 CAT-Q の理論的枠組みを維持した短縮版として作成され, 信頼性および妥当性が検討されている (Hull et al., 2024)。

(3) The 8-item general alexithymia factor score (GAFS-8 ; Williams & Gotham, 2021)

感情を認識し言語化することの困難さを指すアレキシサイミア傾向を測定する尺度である。Toronto Alexithymia Scale (TAS-20 ; Taylor et al., 1985) の心理測定学的検討に基づき作成された短縮版であり, 8項目から構成される。各項目について, 「まったく当てはまらない (1点)」から「非常に当てはまる (5点)」の5段階で評定を求めた。合計得点は8点から40点の範囲をとり, 得点が高いほどアレキシサイミア傾向が強いことを示す。日本語訳は出版元である三京房から許可を得た上で TAS-20 日本語版のものを使用した。同時にオンライン調査でのフォーマット変更の承諾も得た。

(4) Kessler Psychological Distress Scale (K10 ; Kessler et al., 2002, Furukawa et al., 2008)

過去4週間における不安や抑うつ症状を含む一般的な心理的苦痛を測定する尺度である。10項目からなり, 「まったくない (1点)」から「いつも (5点)」の5段階で評定を求めた。合計得点は10点から50点の範囲をとり, 得点が高いほど心理的苦痛が大きいこと, すなわちメンタルヘルスの問題が大きいことを示す。

3. 統計的分析

CATI-j 各尺度, CATQ-SF, GAFS-8, K10 の

得点について、記述統計とCronbachの α 係数を求めた。また、尺度間のPearsonの積率相関係数、そして、CATI-j合計得点で統制した各尺度の偏相関係数を求めた。性別、CATI-j合計得点、CAM、CATQ-SF、GAFS-8を独立変数、K10を従属変数にした重回帰分析を行った。

結果

1. 記述統計

大学生87名の各尺度の記述統計および α 係数は表1の通りである。尺度の内の一貫性を表す α 係数は、CAMで $\alpha = .81$ と高め、CATQ-SFでは $\alpha = .66$ と許容範囲ではあるが他の尺度に比べ低

めであった。CAMはカモフラージュ行動のうち主に「補償」の側面を測定する項目から構成されており、一方、CATQ-SFは原版CAT-Qの「補償」「マスキング」「同化」の各下位尺度から3項目ずつ、合計9項目で構成されている。また、日本版CAT-Qは因子分析の結果、11項目を除外した14項目により、Hull et al. (2019)の原版CAT-Qと同様の3因子構造を示しており、日本独自の項目構成となっている(Hongo et al., 2024)。これらの点を踏まえるとCATQ-SFの内の一貫性が高くないことの背景には、広範なカモフラージュを測定していることや文化的差異が影響した可能性があると考えられる。

表1 各変数の記述統計とCronbachの α 係数

尺度	平均	SD	α 係数
CATI合計得点(自閉症特性)	97.86	18.38	.86
CAM(社会的カモフラージュ)	20.75	5.77	.81
CATQ-SF(社会的カモフラージュ)	31.94	8.32	.66
GAFS-8(アレキシサイミア傾向)	21.05	8.34	.90
K10(心理的苦痛)	22.49	9.26	.94

CATI合計点：CATI-jのCAM下位尺度項目を除いた5つの下位尺度項目の合計得点
CAM：CATI-jの社会的カモフラージュ尺度

2. 各尺度の相関と自閉症特性で統制した偏相関

各尺度間のPearsonの積率相関係数およびCATI合計得点を統制した偏相関係数を表2に示した。CATI合計得点は、社会的カモフラージュの尺度(CAM, CATQ-SF), GAFS-8), 心理的苦痛(K10)といずれも有意な正の相関を示した

($r = .50-.64, ps < .01$)。また、CATI合計得点を統制した偏相関においても、CATQ-SF ($r = .42, p < .01$) およびGAFS-8 ($r = .45, p < .01$) はメンタルヘルスの問題と有意に関連していた。一方、CAMと心理的苦痛の関連は弱かった($r = .23, n.s.$)。

表2 各変数の相関係数と偏相関係数(統制変数CATI合計得点)

	CAM	CATQ-SF	GAFS-8	K10
CATI合計得点(自閉症特性)	.522***	.534***	.501***	.641***
CAM(社会的カモフラージュ)	1	.724***	.580***	.484***
CATQ-SF(社会的カモフラージュ)	.617***	1	.496***	.612***
GAFS-8(アレキシサイミア傾向)	.431***	.313**	1	.621***
K10(心理的苦痛)	.228**	.416***	.451***	1

** $p < .01$ *** $p < .001$ 右上は相関, 左下は偏相関
CATI合計点：CATI-jのCAM下位尺度項目を除いた5つの下位尺度項目の合計得点
CAM：CATI-jの社会的カモフラージュ尺度

3. 心理的苦痛に関連する諸特性

自閉症特性 (CATI 合計得点), 社会的カモフラージュ (CAM および CATQ-SF), アレキシサイミア傾向 (GAFS-8) を独立変数, 心理的苦痛 (K10) を従属変数とする重回帰分析を行った。その結果, 回帰モデル全体は有意であった ($R = .771$, $R^2 = .594$, $F(4, 82) = 29.96$, $p < .001$)。すなわち, 本モデルは K10 の分散の約 59% を説明していた。各説明変数の効果を検討したところ, アレキシサイミア傾向は心理的苦痛と有意な正の関

連を示した ($B = 0.40$, $t = 4.01$, $p < .001$)。また, 自閉症特性も心理的苦痛と有意な正の関連を示した ($B = 0.18$, $t = 4.00$, $p < .001$)。さらに, 社会的カモフラージュ尺度 (CATQ-SF) も心理的苦痛と有意な正の関連を示した ($B = 0.42$, $t = 3.54$, $p < .001$)。一方, CATI のカモフラージュ下位尺度 (CAM) は心理的苦痛との関連は有意ではなかった ($B = -0.29$, $t = -1.65$, $p = .102$)。共線性の指標である *VIF* は 1.59 ~ 2.47 の範囲であり, 多重共線性の問題は認められなかった。

表 3 心理的苦痛 (K10) を従属変数とする重回帰分析

	<i>B</i>	<i>SE</i>	β	<i>t</i>	<i>p</i>	<i>VIF</i>
CATItotal	0.18	0.05	.33	4	< .001	2.47
CAM	-0.29	0.18	-.15	-1.65	.102	1.59
CATQ-SF	0.42	0.12	.31	3.54	< .001	2.05
GAFS-8	0.40	0.10	.35	4.01	< .001	1.86

モデル全体 $R = .771$ $R^2 = .594$ $F(4, 82) = 29.96$, $p < .001$

B = unstandardized regression coefficient, SE = standard error, β = standardized regression coefficient,

VIF = variance inflation factor.

考 察

本研究では, 一般大学生において, 自閉症特性, 社会的カモフラージュ, アレキシサイミア傾向がメンタルヘルスの問題とどのように関連するかを検討した。その結果, 心理的苦痛 (K10) は自閉症特性 (CATI 合計点), 社会的カモフラージュ (CATQ-SF), アレキシサイミア傾向 (GAFS-8) のそれぞれと独立に関連していることが示された。

まず, 自閉症特性は心理的苦痛と有意な正の関連を示した。この結果は, 先行研究と一致する (Lever & Geurts, 2016; Hollocks et al., 2019)。自閉症特性の高さは, 社会的相互作用の困難や感覚過敏などの特徴を通して日常生活上のストレスを増大させ, 心理的適応に影響を与える可能性がある。

次に, アレキシサイミア傾向も心理的苦痛と有意な正の関連を示した。アレキシサイミアは感情の認識や言語化の困難を特徴とする特性であり,

不安や抑うつと関連することが知られている (Taylor et al., 1997)。本研究では, 自閉症特性を統制した場合でもアレキシサイミアが心理的苦痛と独立に関連していた。これは, 心理的適応に自閉症特性そのものだけでなく, 感情処理特性が重要な役割を果たす可能性を示唆している。近年, ASD における情動処理の困難の一部はアレキシサイミアによって説明される可能性が指摘されており (Kinnaird et al., 2019), 本研究の結果もこの観点と整合的である。

さらに, 社会的カモフラージュについては, CATQ-SF は心理的苦痛と有意に関連していた一方で, CATI-j の CAM 下位尺度は有意ではなかった。この結果は, カモフラージュの測定方法によってメンタルヘルスとの関連が異なる可能性を示している。CATQ-SF は補償, マスキング, 同化といった多面的なカモフラージュ行動を測定する尺度であり, 社会的適応のために払われる努力や心理的負担をより包括的に捉えていると考えられる。ま

た, Cook et al.(2021) は, 自閉症におけるカモフラージュ研究のレビューにおいて, CAT-Q などの自己報告尺度に含まれるいくつかの行動や戦略が, 社交不安, 印象管理, パッシングといった構成概念に関連する行動と重複している可能性を指摘し, 自己報告式の測定方法の課題を論じている。一方, CATI の CAM 下位尺度の項目(資料1)は CAT-Q の項目と比較すると, 主として補償の側面にかかわる項目で構成されており, 比較的限定的なカモフラージュ行動を測定している可能性がある。カモフラージュにおいては尺度によって測定する概念が異なる可能性があることがレビュー研究においても指摘されているが (Cook et al., 2021 ; Khudiakova et al., 2025), CATQ-SF と CATI-j カモフラージュ尺度においても同様のことが言えるだろう。

また, 近年の研究でも, カモフラージュは短期的には社会的適応を促進する一方で, 長期的には心理的苦痛を生じさせることが指摘されている (Cook et al., 2021)。このことから, カモフラージュ行動の種類による短期的および長期的な影響を, 縦断調査から明らかにしていく必要がある。

以上の結果から, 自閉症特性, 社会的カモフラージュ, アレキシサイミアは, 大学生のメンタルヘルスを理解する上で重要な心理特性であることが示された。特に, 大学生支援においては感情処理の困難や対人適応のための過度な努力に着目することが重要であると考えられる。

一方で, 本研究にはいくつかの限界がある。第一に, 本研究は単一大学の学生を対象とした横断研究であり, 結果の一般化には慎重である必要がある。第二に, 本研究は近似する概念を扱う自己報告尺度のみを用いており, 共通方法バイアスの影響を受けている可能性がある。第三に, 本研究ではカモフラージュの内容の違い, つまり, 補償, マスキング, 同化といった下位概念ごとに検討していない。今後は縦断研究や多面的な測定方法を用いて, これらの特性がメンタルヘル스에影響する心理的メカニズムを明らかにすることが求められる。

引用文献

- American Psychiatric Association. (2022). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders*. American Psychiatric Association Publishing.
- Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Skinner, R., Martin, J., & Clubley, E. (2001). The autism spectrum quotient (AQ): evidence from Asperger syndrome/high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians. *Journal of autism and developmental disorders*, 31(1), 5-17.
- Constantino, J. N., & Todd, R. D. (2003). Autistic traits in the general population: a twin study. *Archives of general psychiatry*, 60(5), 524-530.
- Cook, J., Hull, L., Crane, L., & Mandy, W. (2021). Camouflaging in autism: A systematic review. *Clinical Psychology Review*, 89, 102080.
- English, M. C., Gignac, G. E., Visser, T. A., Whitehouse, A. J., Enns, J. T., & Maybery, M. T. (2021). The Comprehensive Autistic Trait Inventory (CATI): Development and validation of a new measure of autistic traits in the general population. *Molecular autism*, 12(1), 37.
- Furukawa, T. A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., ... & Kikkawa, T. (2008). The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International journal of methods in psychiatric research*, 17(3), 152-158.
- Hollocks, M. J., Lerh, J. W., Magiati, I., Meiser-Stedman, R., & Brugha, T. S. (2019). Anxiety and depression in adults with autism spectrum disorder: a systematic review and meta-analysis. *Psychological Medicine*, 49(4), 559-572.
- Hongo, M., Oshima, F., Guan, S., Takahashi, T., Nitta, Y., Seto, M., ... & Shimizu, E. (2024). Reliability and validity of the Japanese version of the camouflaging autistic traits questionnaire. *Autism Research*, 17(6), 1205-1217.
- Hull, L., Mandy, W., Belcher, H., & Petrides, K. V. (2024). Validation of the camouflaging autistic traits questionnaire short form (CATQ-SF). *Comprehensive Psychiatry*, 135, 152525.
- Hull, L., Petrides, K. V., Allison, C., Smith, P., Baron-

- Cohen, S., Lai, M. C., & Mandy, W. (2017). “Putting on my best normal” : Social camouflaging in adults with autism spectrum conditions. *Journal of autism and developmental disorders*, 47(8), 2519-2534.
- Kanne, S. M., Christ, S. E., & Reiersen, A. M. (2009). Psychiatric symptoms and psychosocial difficulties in young adults with autistic traits. *Journal of autism and developmental disorders*, 39(6), 827-833.
- Keating, C. T., Hickman, L., Geelhand, P., Takahashi, T., Leung, J., Monk, R., Schuster, B., Rybicki, A., Girolamo, T. M., Clin, E., Papastamou, F., Belenger, M., Eigsti, I. M., Cook, J. L., Kosaka, H., Osu, R., Okamoto, Y., & Sowden-Carvalho, S. (2024). Cross-cultural variation in experiences of acceptance, camouflaging and mental health difficulties in autism: A registered report. *PloS one*, 19(3), e0299824.
- Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D. K., Normand, S. L., Walters, E. E., & Zaslavsky, A. M. (2002). Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological medicine*, 32(6), 959-976.
- Khudiakova, V., Alexandrovsky, M., Ai, W., & Lai, M. C. (2025). What we know and do not know about camouflaging, impression management, and mental health and wellbeing in autistic people. *Autism Research*, 18(2), 273-280.
- Kinnaird, E., Stewart, C., & Tchanturia, K. (2019). Investigating alexithymia in autism: A systematic review and meta-analysis. *European Psychiatry*, 55, 80-89.
- Kunihira, Y., Senju, A., Dairoku, H., Wakabayashi, A., & Hasegawa, T. (2006). ‘Autistic’ Traits in Non-Autistic Japanese Populations: Relationships with Personality Traits and Cognitive Ability: Kunihira et al. *Journal of autism and developmental disorders*, 36(4), 553-566.
- Lever, A. G., & Geurts, H. M. (2016). Psychiatric Co-occurring Symptoms and Disorders in Young, Middle-Aged, and Older Adults with Autism Spectrum Disorder. *Journal of autism and developmental disorders*, 46(6), 1916-1930.
- Okada, S., Chida, W., English, M., Shibata, J., Onsen, M., Tsutsui, J., & Nakamura-taira, N. (2024). Development and Validation of the Japanese Version of the Comprehensive Autism Trait Inventory in University Students. *Psychological Test Adaptation and Development*.
- Preece, D. A., Mehta, A., Petrova, K., Sikka, P., Pemberton, E., & Gross, J. J. (2024). Alexithymia profiles and depression, anxiety, and stress. *Journal of affective disorders*, 357, 116-125.
- Sakurai, K., Nishi, A., Kondo, K., Yanagida, K., & Kawakami, N. (2011). Screening performance of K6/K10 and other screening instruments for mood and anxiety disorders in Japan. *Psychiatry and clinical neurosciences*, 65(5), 434-441.
- Tafolla, M., & Lord, C. (2024). Longitudinal analyses of mental health in autistic individuals: A systematic review. *Brain Sciences*, 14(10), Article 1033.
- Taylor, G. J., Parker, J. D., Bagby, R. M., & Acklin, M. W. (1992). Alexithymia and somatic complaints in psychiatric out-patients. *Journal of psychosomatic research*, 36(5), 417-424.
- Taylor, G. J., Ryan, D., & Bagby, R. M. (1985). Toward the development of a new self-report alexithymia scale. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 44, 191-199.
- Taylor, G. J., & Taylor, H. L. (1997). Alexithymia. In *Psychological mindedness* (pp. 77-104). Routledge.
- Williams, Z. J., & Gotham, K. O. (2021). Improving the measurement of alexithymia in autistic adults: a psychometric investigation of the 20-item Toronto Alexithymia Scale and generation of a general alexithymia factor score using item response theory. *Molecular autism*, 12(1), 56.

資料1 CATI-jの社会的カモフラージュ尺度 (CAM)

-
3. 人に合わせようとする、かなりの精神的なエネルギーを使う
 6. 社会的であることを求められると (人と積極的に関わるように言われるなど)、他の人のやり取りの様子を見て、それを真似しようとするのがときどきある
 9. 自分が今より社会的に見える方略や方法を探している
 16. 人とやりとりするとき、自分がどのように振舞っているのかをチェックするのにかなりの労力を使う
 22. 人と話すときには、(振る舞いや会話の進め方についての) 筋書きをいくつか作っておき、それをたよりにしている
 29. 社交の場に行くときには、うまく振る舞えるように事前に筋書きを作っておき、可能な限りその通りにする
 39. 決まったルールに従うことで、社交の場を切り抜けようとする
-

「1まったく当てはまらない」から「5とても当てはまる」の5件法

資料2 CATQ-SFの全項目 (Hull et al., 2024 ; Hongo et al.(2024) の日本語訳を使用)

【補償 compensation】

1. 私は身ぶりや表情が自然に見えるように練習する
4. 私は自分の社会的スキルを改善するために、社会的交流のルールを研究している (心理学を学ぶ、人間行動についての本を読むなど)
7. テレビや映画を見たり、小説を読んだりすることで、人がどんな身ぶりや表情を使って他人と交流するかを学ぶ ※

【マスキング masking】

2. 私は身ぶりや表情に気を配って、リラックスしているように見せる
5. 社会的交流では、自分の顔に浮かぶ表情や自分の体の動きに注意を払わない
8. 私はやりとりをしている相手に自分が興味を持っていると思われるように、自分の身ぶりや表情に注意を向けている ※

【同化 assimilation】

3. 社交の場では、私はありのままの自分ではなく「演じて」いるような気がする
 6. 私は社交の場にいるときに、人と交流するのに勇気を奮い起こす必要がある
 9. 他人といえるときに、自由に本来の自分になれると思う ※
-

「1まったくそう思わない」から「7非常にそう思う」の7件法、 ※は逆転項目

Abstract

This study examined the relationships between autistic traits, social camouflaging, alexithymia, and psychological distress among university students. A questionnaire survey was conducted with 87 university students. Participants completed measures of autistic traits (CATI-j), social camouflaging (the short form of the Camouflaging Autistic Traits Questionnaire: CATQ-SF, and the CAM subscale of CATI-j), alexithymia (the short form of the Toronto Alexithymia Scale-20: GAFS-8), and psychological distress (K10). Correlation, partial correlation, and multiple regression analyses revealed that autistic traits, alexithymia, and social camouflaging measured by CATQ-SF were independently associated with psychological distress. In contrast, CAM, the camouflaging subscale of CATI-j, did not show a significant association with psychological distress. These findings suggest that autistic traits, social camouflaging, and alexithymia are related to mental health problems even among non-clinical university students. Furthermore, CATQ-SF appears to be a useful measure for assessing social camouflaging associated with psychological distress, whereas the CAM subscale of CATI-j may capture camouflaging behaviors with relatively lower psychological costs. These results suggest that the two measures should be used selectively depending on research or clinical purposes.

Keywords : autistic traits/ social camouflage/ alexithymia/ mental health/

